

平成29年度「若手女性研究者支援」採択者報告書

実施日 開催場所	企画者名(所属) タイトル
2017年10月29日(日) 京都教育大学藤森キャンパス (日本音楽学会第68回全国大会 パネル企画(パネル3))	齊藤 紀子(グローバルリーダーシップ研究所) 「日本の洋楽受容史におけるアメリカ ——ヴォーリズ建築の駒井家住宅(京都)をめぐる音楽空 間から——」

【企画・主催した若手女性研究者からの報告】

1. 目的・意義

日本音楽学会でパネルを開催することにより、個人の発表では得ることのできない、パネリスト・聴衆の研究者と本テーマを共有して十分に議論する場を築くことを目指す。また、企画・運営を主体的に進める経験を通してその実行力を養い、科研費の継続課題の申請(来年度応募予定)、5年に1度開催される国際音楽学会(次回は2022年の予定)にシンポジウムの企画を応募することに備える。

2. 実施内容

1) 企画の経緯

申請者は、科研費の助成を受けて進めている研究「日本の洋楽受容史におけるアメリカの影響——ヴォーリズ建築にみるピアノの普及——」の調査の過程で、京都にあるヴォーリズ建築の1つ駒井家住宅にまつわる1次史料『團欒』(駒井静江夫人の実家青野家を中心とする家族新聞)を発見した。そして、そのなかに掲載された静江によるアメリカ便りにみられる音楽紀行が、科研費の調査目的を達成するに適うものであることがわかった。そこで、この『團欒』に焦点をあてて日本の洋学受容史におけるアメリカを再考する個人の研究発表を日本音楽学会全国大会に申し込む予定でいた。そのようななか、本プロジェクトの話をいただき、本企画と深い関わりのある3名の研究者をパネリストとして迎え、パネル企画に発展させて応募した。

2) 開催までの過程

7月半ばに開催が決定し、8月上旬に3名のパネリストと個別の打合せを行った。コーディネーターからは企画の趣旨説明をし、パネリストからは予め依頼していた講演内容についての構想と参照する文献をうかがう。9月7日にコーディネーターとパネリストが一堂に会し、駒井家住宅の見学の後、模擬パネルを行った。各自がレジュメを作成し、持ち寄った資料をもとに情報を交換し、パネル全体の帰着点の検討を行うことにより、全体の構成のなかでの4人の位置づけを互いに理解し合い、パネル当日まで発表内容を練り直す時間を設けることができた。なお、本企画が学際的なテーマであることから、学会初の試みとして、本プログラムのみ、事前に申込をすれば非学会員も無料で参加できることとなった。そこで、チラシを作成し、駒井家住宅を管理する(公益財団法人)日本ナショナルトラストや

パネリストの所属機関、コーディネーターがこれまでに調査でお世話になった方々に配布することとした。

3) パネル

台風 22 号が関西に最も接近する日となったが、学会員に加え、事前申込のあった関係者(駒井家代表、駒井家住宅のガイド、ヴォーリズ建築愛好者など)11 名の参加を迎え、80 名ほどが集った。また、本企画と並行して 4 つのプログラムが進行していたが、日本音楽学会会長も出席した。

申請者はコーディネーターを務めたが、本来、個人での研究発表を計画していたことから、冒頭で本企画の趣旨を述べて 3 つのキーワード(アメリカ、住宅、女子教育)を提示した後、自身も『團欒』を史料に研究発表を行った。この発表は、新資料の提示の点でも、本企画の趣旨である(ドイツの影響に偏向しがちである)日本の洋学受容史研究にアメリカ経由の流入を再考する契機をもたらして新知見を示す点でも、意義あるものとして計画した。

コーディネーターに続き、①駒井家が竣工する 30 年ほど前からの京都の音楽文化史(京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター上野正章研究員)、②日米の住宅文化史とヴォーリズの住宅設計観にとり入れられたピアノ(ゲストとして迎えた大阪芸術大学のヴォーリズ建築研究者山形政昭教授)、③駒井静江夫人の神戸女学院における音楽の学び(神戸女学院津上智実教授)についてパネリストが調査結果を発表した。コーディネーターは、昨年の日本音楽学会全国大会で、ヴォーリズ住宅の実例とヴォーリズ自身の著述をもとにヴォーリズの住宅設計観にとり入れられたピアノについて研究発表をした。パネリスト②の講演は、コーディネーターの昨年の研究発表について建築文化史の研究者から実証される場ともなった。

3. 本支援により得られた成果・効果

音楽学は、研究調査も研究発表も単独で行うことが多い分野である。本プロジェクトの助成を得てパネルを企画できたことは、大変貴重な機会となった。とりわけ、パネリストへの講演依頼、(公益財団法人)日本ナショナルトラストの協賛、駒井家代表駒井俊雄氏の研究調査への協力は、独力で適うことではなく、お茶の水女子大学のプロジェクトへの信頼から実現できたと考えている。日本ナショナルトラストからは、本企画への協賛として、本来、文化財であるために有償で見学や貸出に対応している駒井家住宅の無償貸与、写真の撮影、使用の許可をいただいた。また、駒井家代表駒井俊雄氏をご紹介いただき、聴取調査、個人所蔵の史料の調査へとつながった。

【参加者の声】 学会員～コーディネーターとしての冒頭の問題提起が明確でよかった。とくに最初にキーワードとその背景を提示したことがよかった。洋風住宅にとり入れられたピアノについて考えることに対する建築関係者の見解を聴くことができた。非会員～音楽の視点からヴォーリズを研究する試みはこれまでになかったが、ヴォーリズの関わった様々な事業のどれをとっても音楽が欠かせないことに気がついた。パネルを通して人脈を広げ、閉会後もゆっくり語り合うほど話はずんだ。「音楽＝クラシック音楽」の敷居が高いイメージがあったが、住宅とピアノ

ノという生活と深い関わりのある場面の話から、日本の文化史として考えられた。学会実行委員へ開催地と関連性の深いプログラムを組むことができたことを感謝している。学会を非会員に対しても開かれたものにするのを試みることができた。とくに、ディスカッションの冒頭でコーディネーターが音楽学会員ではない聴衆にも参加を呼びかけ、実際に、建築関係者などがこのテーマをどのように捉えているのか学会員みなで聴けたことがよかった。

【非公開の一次史料へのアクセス】 申請者は昨年、神戸女学院が所蔵する貴重史料の閲覧を希望したが、成績等個人情報を含むこと、神戸女学院として調査中であることを理由に、適わなかった。今回のパネル企画では、同校の教授をパネリストとして迎えたため、この数ヶ月で一次史料の調査を進めることができた。

【研究手法の習得】 個別の打ち合わせの折に、パネリストに使用予定の文献資料を教示していただいた。そして、全体の打ち合わせまでにそれらの文献資料を通読した。この作業に取り組んだ 1 ヶ月の間、申請者自身の研究調査はあまり進められなかったが、学会で研究発表を聴くようにパネリストの発表を聴くのではなく、限られた発表時間のなかでどのような史料を用いてどのように論を展開していくのか、研究手法や研究成果をまとめる過程を学ぶ機会ともなった。

【申請者自身の研究の進展】 パネル開催に至る過程を計画して実行することも、3 名のパネリストの発表内容をもとにパネルそのものの帰着点を検討することも、これまでに経験したことのない作業であった。そして、1 人 1 人で完結しがちな研究発表の相互の関連性や論理性を模索することは、コーディネーター自身の今後の研究調査の進展の可能性について、独力では想定外であった選択肢も含めて考え、研究計画を練る 1 つの材料となった。来年度に予定している科研費の継続申請や、2022 年に開催予定の国際音楽学会でのシンポジウムの企画・応募など、総じて、自身の研究活動を推進させる大きな原動力となったといえる。



文部科学省特別経費（国立大学機能強化分）
「グローバル女性リーダー育成カリキュラムに基づく教育実践と新たな女性リーダーシップ論の発信」

日本音楽学会第 68 回全国大会パネル企画（パネル 3）

日本の洋楽受容史におけるアメリカ

— ヴォーリス建築の駒井家住宅（京都）をめぐる音楽空間から —

メンタムで有名な近江兄弟社を興した W. M. ヴォーリス（1880-1964）は、アメリカから英語教員として来日し、その後、日本で学校や教会、住宅を設計しました。本パネルでは、ヴォーリスが 1925 年に設計した駒井卓博士（京都大学元教授）の住宅をとりあげ、米国由来の文化に焦点をあてながら日本の音楽文化史を読み解いてまいります。駒井卓博士のコロンビア大学研究所在籍時に静江夫人が親戚に向けて綴った「アメリカ便り」からは、当時の日本人が異国の地で体験した音楽のいきいきとした様子が伝わってきます。日本音楽学会全国大会のパネル企画ですが、ヴォーリス建築としての駒井家もご紹介します。大正末～昭和初期の日本の文化史にご関心をお持ちの皆様のご参加をお待ちしております。

*駒井家住宅は公開されています。詳しくは日本ナショナルトラストの公式 HP をご参照ください。

コーディネーター 齊藤 紀子

お茶の水女子大学グローバルリーダーシップ研究所特別研究員【みがかずば研究員】
「家族新聞『団楽』（1924-25）にみる駒井夫妻と音楽」

パネリスト

上野 正章 京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター研究会研究員
「戦間期京都における西洋音楽の楽しみについて」

山形 政昭 大阪芸術大学教授
「ヴォーリス建築としての駒井家住宅」

津上 智実 神戸女学院大学教授
「駒井静江と神戸女学院の音楽教育」

2017 年
10 月 29 日（日）

10 時 05 分～12 時 15 分

開催時間 にご注意ください

京都教育大学藤森キャンパス

1 号館（C 棟）2 階 大講義室

京都府京都市伏見区深草藤森町 1

JR 奈良線「JR 藤森駅」徒歩 3 分

京阪本線「墨染駅」徒歩 10 分



本パネルにご参加をご希望の方は、事前にお申しください（参加費無料）。

申込先：コーディネーター（E-mail：saito.noriko@ocha.ac.jp）

期限：10 月 23 日（月）

*学会他のプログラムにも参加される場合の参加費等については、大会公式 HP をご確認ください。

協賛：公益財団法人 日本ナショナルトラスト

研究調査協力：駒井 俊雄

お問合せ先：コーディネーター（齊藤 紀子） E-mail：saito.noriko@ocha.ac.jp
日本音楽学会第 68 回全国大会公式 HP http://www.musicology-japan.org/activity/activity_main.html

図 1 「若手女性研究者支援」チラシ